

Contents

ごあいさつ	02
基本理念	03
ミッション	04
国際高等研究所30年の歩み	05
研究活動	07
基幹プログラム	
将来の地球社会を考えた時の科学技術の在り方	09
多様な価値観を持つ社会や国家の平和的共存のための方策	11
「けいはんな未来」懇談会	13
研究プロジェクト	
領域横断型の生命倫理プラットフォームの形成に向けて	15
人工知能に関する問題発掘型対話基盤と新たな価値観の創出	17
精神発達障害から考察する decision making の分子的基盤	19
生命活動を生体高分子への修飾から俯瞰する	21
設計哲学	23
総合コミュニケーション学	25
ネットワークの科学	27
分子基盤に基づく生体機能への揺らぎとダイナミックネットワークの解明	29
クロマチン・デコーディング	31
交流・広報	33-36
ソーシャル・コミュニケーション活動	
財務・決算ハイライト	37
国際高等研究所 組織役員	39
国際高等研究所戦略会議:ISCの活動	41
2015年度法人運営会議開催実績	43
施設紹介	45

本アニュアルレポートに記載されている所属・役職は特記されているものを除き2016年3月31日現在、もしくはイベント開催当時のものです。

ごあいさつ

世界的にもユニークな研究所として、独自の価値を創出し続けます

国際高等研究所(高等研)の基本理念である、「人類の未来と幸福のために、何を研究すべきかを研究する」とは、持続可能社会の実現のための課題を探求し、発見し、社会に問いかけ、皆で議論し、国境や立場を超えて解決策を「一緒に考えていく」ことです。

高等研は、ナショナルプロジェクトである「けいはんな学研都市」の中核機関として、関西はじめ全国の産学公民の多くの皆様のご協力を賜り1984年に設立されて以来、30年以上にわたり、基本理念に基づき様々な研究活動を行ってまいりました。経済格差、貧困問題、食糧問題、環境問題など、世界が持続不可能な方向に進んでいるようにも思われる現在、高等研の基本理念は、色あせないばかりか、ますます今日的な意味をもつものと考えています。

2015年度は長尾真氏に第7代所長に就任いただき、さらに研究活動を展開するとともに、学研都市におけるイノベーション創出と、よりよいサイエンスシティの実現に向けて、産学公民によるコミュニティ形成活動にも注力いたしました。

高等研は、変化が激しく短期的な成果が求められる今日の社会において、長期的で多様な視点から人類の未来と幸福を考える稀有な存在です。持続可能社会の実現に向けて、さらに課題認識を社会に問いかけ、議論し、解決策を考え、研究成果の社会実装を目指しながら、独自の価値を創出し提供し続けてまいります。



公益財団法人国際高等研究所
理事長 立石 義雄

持続可能な社会の構築に向けた研究や議論を深め、社会に発信していきます

2015年4月に高等研の第7代所長に就任し、研究事業の運営を進めてきました。現在の地球社会において、人類が将来にわたって平和的に共存していくためには、日本人が歴史的に築き上げてきたものの考え方の重要性を世界に問いかけることが大切であり、この高等研は、日本の歴史において文化的・経済的価値を蓄積してきた京都・大阪・奈良の中心にあって、日本の優れた文化、芸術、技能、技術、風土、環境を俯瞰し、課題の発見から解決まで、それらを総合できる位置にあります。そのような特長を活かし、有限の地球という認識のもと、最も重要な課題を基幹プログラムとして設定し、とくに注力しています。さまざまな立場の人たちが、国や組織、分野を超えて集い、議論を展開することで、学術、科学技術のみならず、文化、社会、経済の新しい方向性を見つけ出していきたいと思えます。



公益財団法人国際高等研究所
所長 長尾 真
京都大学名誉教授
京都大学元総長